

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：ノリ網の干出がノリ芽に与える影響			
<p>[要約] 育苗初期のノリ網に強干出を行いノリ芽を淘汰することが良質種網作製手段として有効であるか否か検討した。その結果、ノリ芽の根様糸長の発達が良好となり、水温 18℃ (年内生産時想定水温)の室内培養条件下における生長や形態が良好であったことから、年内生産時の種網作製手段として有効である可能性が示唆された。</p>			
キーワード ¹⁾ ノリ、育苗、干出操作、葉長、根様糸長、脱落葉体数			
実施機関名	主査 千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所	のり・貝類研究室	
	協力機関 千葉県水産振興公社富津事業所、新富津漁業協同組合		
実施期間	2006 年度		

[目的及び背景]

ノリ養殖の育苗期の干出操作はノリ以外の雑生物の駆除やノリ芽の健全育成のための重要な管理操作である。しかし、近年は病害や海況要因による芽の脱落を考慮し干出強度が弱い傾向にあり、さらに採苗時に必要以上に種を付ける傾向にある。このことが、ノリ芽の健全な生長を阻害している可能性が養殖現場からも指摘されている。そこで、本試験では表 1 のとおり試験区を設定して、育苗初期の強干出によってノリ芽を淘汰することが良質種網の作製手段として有効であるか否か、現場での干出試験及び年内生産(18℃)・年明生産時(13℃)を想定した水温区で室内培養試験を行い検討した。

[成果内容]

- 1 ノリ芽着生数は強干出（試験区 1 及び 2）によって半減した（表 2）。一方、通常の干出を行った対照区 1 及び 2 での減少は少なかった。
- 2 対照区 1 及び 2 のノリ芽着生数と葉長(図 1)、根様糸長(図 2)の関係から、着生数が多いほど葉長及び根様糸長は短くなる傾向を示した。
一方、強干出を行った試験区 1 及び 2 では対照区 1 及び 2 に比べて葉長は短い、根様糸長が長くなる傾向を示した。この傾向は試験区 2 でより顕著であった。
- 3 水温 18℃で室内培養を行った結果、試験区 1 及び 2 の葉長及びノリ芽の形態は対照区と比べて良好であった（写真 1～4）。一方、13℃で培養を行った場合は、すべての試験区で生長・形態は良好であった（写真 5～8）。
- 4 試験区 1 及び 2 の脱落葉体数(図 3)は、対照区に比べて少ない傾向であった。一方、対照区 2 の 18℃培養時の脱落葉体数は他の試験区に比べて極端に多かった。
- 5 以上の結果から、育苗初期の強干出により根様糸長の発達が良好となり、18℃での生長や形態が良好であったことから、年内生産時の種網作製手段として特に有効である可能性が考えられる。

[留意事項]

現場におけるノリ芽の生長や芽落ちには、水温以外の様々な要因が影響するため、室内培養とは異なる結果となる可能性もある。

[普及対象地域]

県下のノリ生産漁業協同組合

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表 1 試験区分の設定

	対照区 1	対照区 2	試験区 1	試験区 2
孢子着生数(個/顕微鏡 100 倍視野)	30	100	100	100
干出開始日	翌日	翌日	当日	翌日
初回干出強度	適正(2h)	適正	適正	強(4h)

※初回以降の干出時間は干出時の気象状況等から適正な干出がかかるように調整した。

表 2 ノリ芽着生率(%)の推移

	0 日目		1 日目			10 日目
	干出前	1.5h 後	前	2 h 後	4 h 後	
対照区 1	—	—	1 0 0	—	—	9 5
対照区 2	—	—	1 0 0	—	—	8 5
試験区 1	1 0 0	8 2	6 1	4 9	—	4 6
試験区 2	—	—	1 0 0	—	5 3	4 4

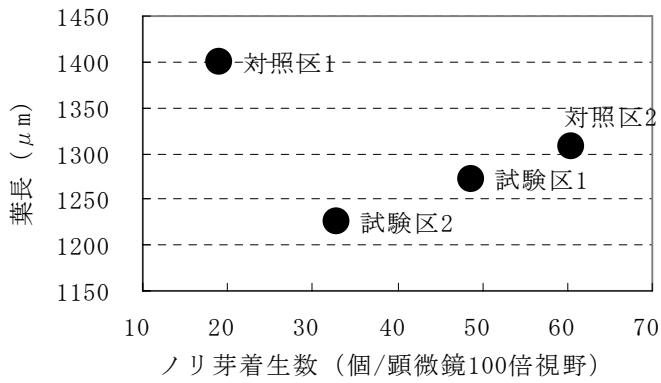


図 1 ノリ芽着生数と葉長の関係

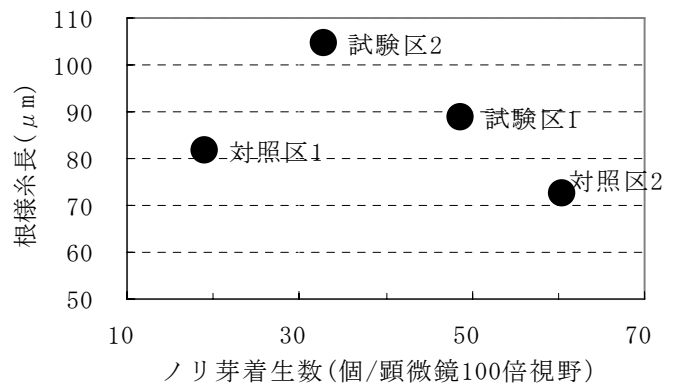


図 2 ノリ芽着生数と根様糸長の関係

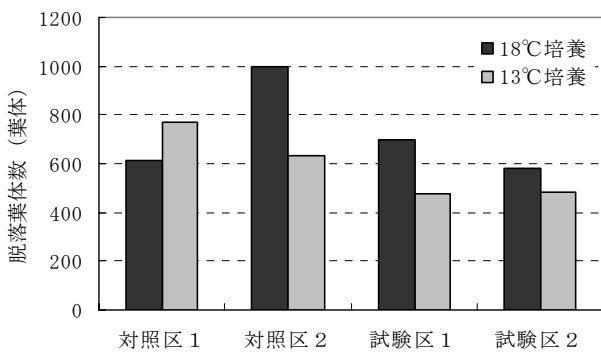


図 3 室内培養時の脱落葉体数



写真1 対照区1 (18°C培養時8日目)



写真2 対照区2 (18°C培養時8日目)



写真3 試験区1 (18°C培養時8日目)



写真4 試験区2 (18°C培養時8日目)



写真5 対照区1 (13°C培養時15日目)



写真6 対照区2 (13°C培養時15日目)



写真7 試験区1 (13°C培養時15日目)



写真8 試験区2 (13°C培養時15日目)

[発表及び関連文献]

育苗初期の干出がノリ芽の着生数および生長に与える影響, 千葉県水産研究センター
研究報告, 第4号, 2005年

[その他]